

イベント内容	開催日(参加人数)	炊き出しメニュー	達人コースの活動
第1回「田植え」 サツマイモの苗植え・落花生の種まき 田楽奉納「津軽三味線」(大高さん親子)	5月19日(180名)	・おにぎり(筍)・煮物(フキ) ・しんこ餅(よもぎ)・卵焼き ・汁物(鶏団子汁)・漬物(大根) ・天ぷら(野草・レンコン)	3/31 種浸け 4/8 種まき 4/21 くるぬり 4/29 代掻き 6/9 一の草 6/16 二の草 7/1 大豆種まき 7/21 小屋壁張り(1) 8/10 小屋壁張り(2) 8/25 大豆の手入れ 9/8 小屋壁作り(1) 9/22 小屋壁作り(2) 9/29 リッツオウ作り 10/20 オダの準備 11/10 わらの収穫 11/23 大豆の収穫 11/25 一日きこり(1) 12/1 堆肥づくり 12/8 わらない 12/9 一日きこり(2) 12/15 小屋の庇づくり 12/22 小屋の庇仕上げ 1/27 一日きこり(3) 2/2 一日蔵人(1) 2/3 一日蔵人(2)、 堆肥の管理 2/16 炭焼き/炭の窯出し 3/18 一日きこり(4)、 きのこの菌打ち 3/22 田んぼの生物勉強会
第2回「草取り&ホタル観賞」 「オカリナアートJOY」ミニコンサート ザリガニ取り 栗山子作り 夜の谷津田散策・ホタル観賞	7月7日(140名)	・おにぎり・汁物(夏野菜) ・煮物(ゴボウ)・枝豆・スイカ ・から揚げ・漬物(大根) ・生野菜(キュウリ)・トマト	
第3回「NEC田んぼ自然学校」 自然観察 「谷津田の自然」学習会 夜の谷津田散策・ホタル観賞 龍ヶ浦の生物調査	7月28日~29日(60名)	・カレーライス ・スイカ ・キュウリ、トマト ・野菜スープ ・ゆで卵、バナナ、パン ・そうめん	
第4回「稲刈り&収穫祭」 茨城県指定重要無形文化財「青屋囃子連」のお囃子 サツマイモ・落花生の収穫 子供の褥みこし	10月28日(180名)	・おにぎり ・汁物 ・煮物 ・天ぷら ・目玉焼き ・ゆで落花生	
第5回「脱穀」 ガーコン(足踏み式脱穀機)、ハーベスタ(自走式自動脱穀機)体験 唐箕(とうみ)によるふるい体験 焼き芋	11月3日(110名)	・ご飯 ・汁物 ・煮物 ・焼き芋 ・しんこ餅	
第6回「酒仕込み神事&味噌作り」 「神事・お祓いの儀」見学 酒蔵見学、試飲会 七草がゆ作り 味噌作り 竹細工 わら細工 餅つき、ならせ餅作り	1月12日(145名)	・NEC田んぼ新米ごはん ・七草、小豆がゆ ・汁物 ・漬物(たくあん) ・煮物	
第7回「新酒蔵出し」 ラベル貼り・小冊子掛け 酒蔵見学、試飲会 わら細工 豆乳づくり 谷津田の生物調査 落ち葉かき、里山整備 竹細工 田んぼ資料展示会	3月8日(140名)	・NEC田んぼおにぎり ・粕汁 ・煮物 ・漬物 ・目玉焼き	達人コース参加者 延べ375名
参加者合計 1,300名 (スタッフ、達人コースを含む)			



NEC田んぼ作りプロジェクト with アサザ基金 2007年度活動報告書



5年目の活動に向けて

早いもので、2004年5月に最初の「田植え体験行事」を開催して丸4年がたちました。この間、PJ活動にご参加頂いた従業員とその家族の総数は累計約4,100名にまで増えました。お米の総収穫量は約5,550kg(初ベース)、お酒の醸造本数は約12,000本(二合瓶換算)。昆虫や植物など生態系の多様性も向上(例:アカガエルの産卵数-200倍)、このPJの拡がりを実感できます。

「全従業員の環境意識を向上」を目的に活動を継続し、グループ内外に大きな波及効果を生み出すことができました。毎年グループ内で実施している環境経営意識調査において、PJ開始前の2003年度結果ではエコエクセレンス:24.2%(回答者:11,292名)でしたが、2007年度にはエコエクセレンス:60.3%(回答者:52,541名)までに拡大しました。社外については、この4年間で70件以上のTV、ラジオ、新聞、雑誌からの取材、各種社外表彰の受賞、環境省や農水省の地域活性化検討報告書にモデル事業として引用されたりと、高い関心を寄せて頂くことができました。

このように活動が進化してきたのも、これまでに参加して下さった従業員とその家族の皆さんをはじめ、関係者の皆さん、経営幹部の方々の継続的かつ暖かいご支援の結果です。いよいよ、2008年度はこのPJも5年目に突入します。これまでアサザ基金さんと100年後にトキの自然再生」を目標に掲げない活動の継続を意識しながら展開してきました。5年目になる2008年度を、さらなる活動の活性化につながるひとつの節目にしたいと考えています。一人でも多くの参加者の方々に、より環境を肌で感じて頂き、持続可能な社会への変革に対する意識を高めて頂く機会を提供して、たいとと考えています。

そこで、この節目となる5年目の活動は、「一足早く、トキの舞うNEC田んぼ」を合い言葉に、例年以上に新たな試みを組み込んでいきます。家族の方々も含めてNECグループの全従業員の皆さんの継続的なご参加をご支援をお願いいたします。

「愛訂で笑呼」の活用

佐々木会長を始め、幹部によるお客様への贈呈やNEC主催の囲碁大会、軽井沢72ゴルフーナメント、支社のイベント等を通じて「愛訂で笑呼」をお客様に楽しんで頂いています。社員の環境意識啓発活動によって作られた純米原酒は大変評判がよく、プロジェクトの取組に対する評価と共に褒め言葉も多く頂いています。

参加者からのメッセージ

日常生活における環境への意識変化(マイ箸・ecoバッグ持参、無洗米購入、地産地消を意識した買い物等)がありました。自然環境保全に対する重要性を再確認するとともに、とにかく参加し行動し、一緒に語らうことで、同じ意識をもつ人たちの環が広がっていくことを実感しました。子供たちが自然のなかで生き生きと走り回る姿を見て、大人も童心に返ることが出来感謝しています。心と体のリフレッシュができました。自宅のまわりでも自然を大切に農作業はじめています。ブームで終わらないように、プロジェクトを続けていけることを望んでいます。続けていくことの難しさ乗り越えて、自分自身も成長していきたいです。より強く自然のありがたみ、大切さを肌で感じる事ができたように感じます。日常の行動でも3Rを強く意識して行動するようになりました。昔の不便を今の便利に変えている代わりに自然破壊をしている事を話し合いました。結構真剣に子供と話ができることが出来、今までとは違った観点でコミュニケーションが出来るようになりました。落ち葉の下からカエルの冬眠姿が現れ、堆肥の中からカブトムシの幼虫が出てきたときには、参加していた周りの人が皆一緒になって自然の姿に感動していました。かつては田んぼとして機能していた土地が荒れ果て、自然であっても本当の姿ではないところを再生させ、また命がよみがえることを体験できたことが一番の収穫です。もっとたくさんの方がかかわることにより自然が再生できれば、未来の子供たちに胸を張って生き様を見せることができると思います。自然・環境を大切さは理解していたが、逆に何もなしでも森林はダメになっていくというのが2年間参加してやっとわかるようになってきました。人間と自然の共存の重要性を理解しつつあります。谷津田での一番印象に残ったことは?と伺ったところ、一番多かったのはやはり、ホタル観賞でした。真っ暗な谷津田の中でホタルが乱舞する様子は忘れられないですね。そして皆さん、クツイ作業ほど印象深く、何故かまたやってみたいとのコメントも多くありました。取っても、取ってもまだまだ残っている草取り、台風後のズブズの田んぼでの稲刈り・・・苦労した分、収穫の喜びも大きかったですね。

広報関係

- <雑誌掲載:5件> 日経エコロジー4月号、環境会議08年春号、IRPR12月号、他
- <新聞掲載:5件> 産業経済新聞、日経プラス1、日刊工業新聞、他
- <社内掲載:6件> DASHBOARD、佐々木会長講演録、NECライブ(社内Web)
- <事例発表:5件> 中央環境審議会、田んぼ国際環境教育会議、他
- <情報交流:14件> 三井物産(株)殿、他

ボランティアスタッフからのメッセージ

昨年11月、プロジェクトの活動の様子を映像で見たことが切掛けとなり、参加することを決めました。酒仕込みイベントに初めて参加し何も分からなかったが、周りの方が親切に指導して下さいました。草や雑草等の採取のお手伝いを行った。夜は全員で念入りな最終打合せを行い、夕食時には、苦労話や夢を聴く事が出来ました。当日は、朝から雪混じりの強風雨の中、厳かな神事に出席し感動感動・素晴らしい内容でした。当プロジェクトは、三位一体の大プロジェクトで再生事業を通して100年後にトキが舞う夢を持っています。この活動を私の地元行政にもアピールし「谷津田」再生を行い地球温暖化対策に少しでも貢献出来ればと思っています。

『夏の心霊特集番組』。私が田んぼプロジェクトを一言で伝えるならば、こんな表現が一番しっくりくるかもしれません。 草をかき分け探ってきた雑草の網焼き、幼い頃、絵本でみたような巨大フライパンで作る目玉焼き、ほんのり甘い手作り豆腐、そして忘れちゃならないINEC米からできた日本酒「愛訂で笑呼」、「メタボ」、「食の安全」、「小麦高騰」・・・自ら体を動かさず、手塩にかけた日本食を食べている限り、こんなキーワードとも無縁です。長靴をはいて新たな一歩を踏み出せば、そこにはきっと『あなたの知らない世界』が待っていることでしょう。

達人からのメッセージ

谷津田に通うようになって丸4年が経過しました。最初の年は楽しくて無我夢中で谷津田に通いました。4年目の2007年度には達人コースに登録し、色々体験させて頂いている内に最終イベントの蔵出しでは「師範代」の称号を認定して頂く程になっていました。私はこの4年間でお米以外にも色々なものを収穫しました。「充実感」、「達成感」、「満足感」、「連帯感」、そして「仲間」。達人コースではマツリとした雰囲気作業を楽しめるので是非、参加してみてください。きっと素晴らしい仲間に出会えます。

田んぼ作りプロジェクトについて

主旨と目的

NECグループは長期ビジョン「NEC環境経営ビジョン2010」の中で、環境と調和した持続可能な事業体への変革を目指して、環境意識向上目標として「2010年までに全社員をエコ・エクセレンス」に、なることを掲げています。その一環として、NEC社員および家族を含めた環境意識啓発実践の場を提供するために、2004年度よりNPO法人・アサザ基金が龍ヶ浦流域で展開されている谷津田再生事業との協業:「NEC田んぼ作りプロジェクト」を開始しました。これは、稲作からお酒造りまでの一年を通じた自然体験プログラムを提供すると共に、NECの製品や技術を活用した「ネットワークセンサー」をキー・コンポーネントとする環境モニタリングシステムの開発も意図したプロジェクトです。

このPJの中で、家族の方々を含めた参加者全員が自然にふれ生き物の逞しさを実感し、また地元の文化や風習にも親しみながら地域の方々との交流も深めていただくことができます。最終成果である「お酒」には「愛訂で笑呼(あいいてでこ)」という銘をつけています。これは、NEC環境経営の基本方針である「IT、で、エコ」と、「お酒を楽しみ(訂を愛し)、福(笑)を呼び込む」との意を重ねて、本活動の本質を表そうと意図したものです。

自然に直接触れることによってそのすばらしさを、そして収穫の喜びを分かち合うことによって「モノ作り」の原点を実感することが、持続可能な社会創りに向けたNECグループ環境経営の推進力強化につながるものと確信しています。

「エコ・エクセレンス」:環境に関する知識も有し、日常的に環境に配慮した行動がとれる意識の高い人材

2007年度の活動概要

2007年度は、NECグループ内外に田んぼ作りPJの輪が拡大した年でした。まず、活動に関しては、2年目となった達人コースがますます充実しました。一連の稲作技術の習得に加えて小屋作りをプログラムに組み込み、田んぼ作りPJで活用する小屋を建築しました。達人プログラムの中で、柱や壁に使う木材の皮むきから始まり、壁張り、屋根葺き、底作りなどなど、少しずつできあがっていく小屋の形に、作業を担当して頂いた達人の皆さんだけでなく、行事の参加者から大きな期待が集まりました。そして、見事2007年冬に完成しました。

外部への拡大については、三井物産殿をはじめ10社を超える企業や自治体の方々との情報交流をし、このPJをご紹介しました。特に、三井物産殿はアサザ基金殿と協業して、従業員の環境意識啓発活動として牛久市で田んぼPJを開始されました。これまでのアサザ基金さんとの協業が社会的な認知を得て、着実な活動の輪の拡がりを実感した出来事でした。



ご協力いただいた方々からのメッセージ

NPO法人アサザ基金 NEC田んぼ作りプロジェクトも5年目を迎え、すっかり地域に根ざした取組に成長することができました。長年地域に暮らしてこられた方々に認めてもらうのは、どこでも結構大変です。毎年、地元東田中自治会の総会に「愛訂で笑呼」を持ってあいさつと報告に向っていますが、いつも住民のみならずから応援や励まし言葉をいただいています。NECのみさんの真摯な姿勢がしっかりと地域の人の心に映っていた証です。もちろん、生き物たちも評価してくれています。年々命のにぎわいを増していく田んぼの光景には目を見張るばかりです。この自然の再生も地域の人々との信頼関係に支えられてはじめて実現するものです。自然も人々も元気になる里山再生のモデルとして、ますます内容を深めながら発展させていきましょう。

白菊酒造(株) 田んぼプロジェクトが始まって以来毎年、年間を通じて多くのNEC社員がイベントに参加していますが、白菊酒造では酒仕込み神事と新酒蔵出しイベントを行い、みなさんに日本酒の製造法や美味しさの秘密を体験して頂いています。中でも達人コースの「一日蔵人」では実際にお酒を仕込んでもらいお米からお酒になっていく過程を体験しています。今年の日本晴は夏の猛暑なども影響してお米が硬質米になり貯(もろみ)の経過が不安定でしたが、淡麗辛口の中にも芳醇な味と香りのバランスが調和した味わい深い純米酒に仕上がりました。日本酒は自然の力を借りて育てます。人間はその手助けをしているだけなのです。北ノ入の谷津田も同じです。私たち人間にとって自然は遊びの宝庫であり、学びの先生です。みなさん、その先生をこれからも協働して守っていきましょう!

(株)小倉味噌店 谷津田再生事業に参加させて頂き3年目になります。味噌教室も3回目となり、年々多くの方に参加して頂いております。イベントで作った味噌を持ち帰り、個々の管理の仕方でも自分だけの味噌..を楽しんで食べている参加者の方のお話を聞き、「おいしくできました。」と喜んでお戻り大変うれしく思っています。NEC田んぼ作りプロジェクトに参加し、これからは数多くの方々に味噌に関心をもっていただけるように動んでいきたいと思つています。

日本電気株式会社
〒108-8001 東京都港区芝五丁目7番1号
発行:2008年4月
お問合わせ先: CSR推進本部 環境推進部
E-mail: info@eco.jp.nec.com
TEL : (03)3798-6617(ダイヤルイン)
FAX : (03)3798-9186
ホームページ http://www.nec.co.jp/eco/ja/tanbo

NEC田んぼ作りプロジェクトメンバー
宇藤、山辺、上間、鈴木、矢代、阿部、白石、松下、草間
ご協力頂いているボランティアスタッフ
山田、今泉、今、南、小林、藤本、渡辺、佐藤、安藤、原田、近藤、野角、斉藤、庄子、栗田 皆さま、ご協力ありがとうございました!
事務局より
田んぼ作りプロジェクトの活動も4年目を無事終えることができました。4年間で参加頂いた社員・ご家族は、延べ4,100名を超えました。ご協力に感謝申し上げます。5周年となる今年(2008年度)は「一足早く、トキの舞うNEC田んぼ」をキャッチフレーズにし、新しい企画も盛り込み、より一層充実した「自然体験型」イベントで、NECグループの環境意識向上に努めてまいります。本活動を温かく見守っていただきますようお願い致します。

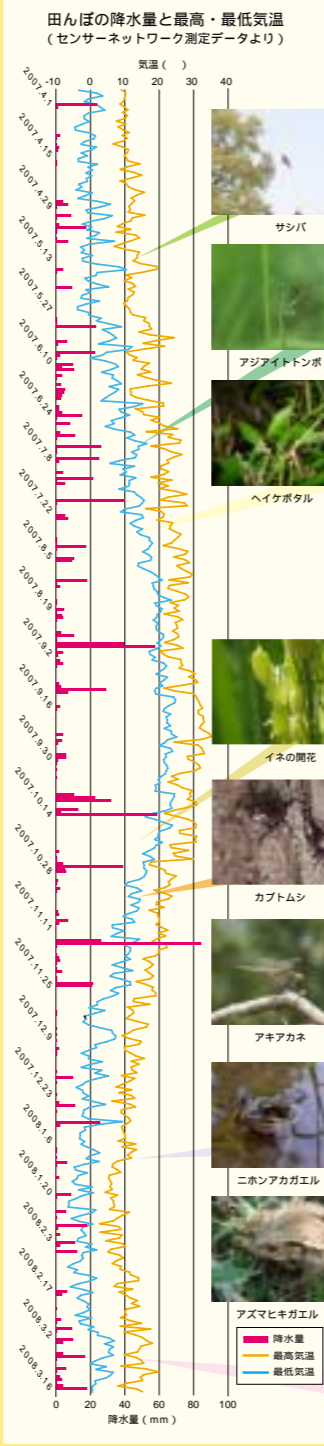
谷津田の一年

田んぼ歳時記

- 4月7日 サシバ初認
- 5月8日 アジアイトトンボ初認
- 5月15日 アオバズク初鳴き
- 5月20日 シオカラトンボ初認
- 5月26日 ホトギス初鳴き
- 6月18日 オオシオカラトンボ初認
- 6月21日 オオアイトトンボ初認
- 6月21日 ヘイケボタル初認
- 6月21日 ニイニイゼミ初鳴き
- 7月19日 ウチワヤンマ初認
- 7月20日 ノコギリクワガタ初認
- 7月20日 ナツアカネ初認
- 7月24日 カブトムシ初認
- 7月24日 ツユクサ開花
- 8月4日 ミンミンゼミ初鳴き
- 8月17日 イネ開花
- 8月23日 ツクツクボウシ初鳴き
- 8月26日 シロヤマギク開花
- 9月27、28日 アキアカネ群飛
- 10月6日 カンタン初鳴き
- 10月19日 カケス初認
- 10月26日 ジョウビタキ初認
- 10月27日 キセキレイ初認
- 10月29日 アオジ初認
- 12月7日 アキアカネ目撃最後

(アサザ基金調べ)

子ども達の観察記録絵



田植え草取り

稲刈り

酒仕込み・お味噌

新酒

田植え 5月19日(土)曇り時々雨 (平均気温15.9) 参加者:約180名
約30000株の「日本晴」の苗を田植え

当日は朝から雨が降り続きましたが、午後は晴れ間が出てきて、今年最初のイベントとして180名が参加し田植えを行いました。作業はAからJまでの10枚の田んぼに、アサザ基金スタッフの指導のもと、全員で日本晴れの苗を植えました。お昼には新酒「愛町で笑呼」の樽酒で田植えを祝った鏡開きが行われた他、田んぼの達人の表彰、さらに毎年恒例となっている大高さん親子の津軽三味線による田楽奉納やお酒とお味噌の試飲・販売が行われ好評でした。昼食もおむすびとちゃんこ汁、摘んだばかりの野草の天ぷらや漬け物等をおいしくいただきました。午後は畑でサツマイモの苗植えや落花生の種まき、谷津田の散歩などを行いました。

草取り 7月7日(土)曇り (平均気温21.9) 参加者:約140名

今回の草取りは「七夕」と重なり、里山から切り出した大きな笹に参加者の皆さんが短冊を飾り付けました。何をお願いしたのかな?「沢山のお米ができますように!」「美味しいお酒ができますように!」と、書いたに違いありませんね?田んぼの中では大人も子供もドロドロになっての草取り。今年もすごい量です。昼食後はオカリナコンサートを聞きながら、冷やしたスイカやトマトを頂きました。うーん。旨い!生物調査や桑山子作りなども行って、夕方からは谷津田の勉強会。そして暗くなった谷津田へもどると...数え切れないホタルの乱舞に誰もが「わぁー」と、声を上げてしまうほどの感動でした。忘れられない夏の思い出になりました。

自然学校 7月28日(土)晴れ後一時雨、雷~29日(日)曇り後、一時雨 参加者:60名
(28日=平均気温:25.3)
(29日=平均気温:23.7)

テントや寝袋をもった家族がNEC田んぼにやってきました!プロジェクト初のお泊まりイベント!小学生を中心とした親子14組が参加し「田んぼの学校」の開校です。まずは飯島校長先生の自然観察授業。みんないろいろな生物を里山から持ち帰り観察して絵に描きました。その後、すごい夕立が発生!小屋やテントに逃げ込みました。夕飯はお父さんたちが大鍋でご飯を炊き、子供たちは一生懸命カレーを作りました。美味しかったですね。谷津田では夜も沢山の虫たちが集まり興味は尽きません。皆が寝静まっても田んぼのカエルのカエルのは合唱は続きました。2日目は谷津田から湧き出る水が流れ込んでいる、露ヶ浦でマコモの植えつけを体験。水中のいろいろな魚介類を見ることができました!

稲刈り 10月28日(日)台風一過 快晴 (平均気温14.7) 参加者:約180名

突然発生した台風20号の影響で、イベントは1日延期になってしまいましたが、台風一過で快晴の収穫日となりました。しかし、田んぼの中は大雨でズブズブです。それでも稲を刈る人・束ねる人、オダに干す人など作業を分担して、各田んぼチームワークよく作業した結果、1枚の田んぼのみを残し、他の全ての田んぼを刈り取ることができました。そして芋掘りや落花生掘りも沢山の収穫があり、焼き芋や茹で落花生などで秋の味覚を味わいました。昨年に引き続きお招きした、茨城県指定の無形文化財のお雛子や「愛町で笑呼」の樽を使った子供御饗などで収穫の秋を堪能する1日になりました。

脱穀 11月3日(土)文化の日、曇りの晴れ (平均気温12.1) 参加者:110名
脱穀成果:約27俵(初ベースで約1640kg)

昨年と同じく、午前中は曇りの多い天気。稲刈り後、十分に天日干しされた稲から初取りをする脱穀です。既にお馴染みになった「ガーコン(足踏み式脱穀機)」や「とうみ(送風式分別機)」などを使って、子どもも大人もいっしょに力を合わせた作業です。秋空に心地よく響き渡るガーコンの回転音に合わせて、稲がどんどんと増えていきます。2007年度の収穫は約1640kg(約27俵:初ベース)でした。秋の日も差してきた午後からは、脱穀作業も一段落し、子ども達はアサザ基金・飯島さんに教わりながらススキを使った人形作りを楽しみました。特に、今回は新たな試みとして干し柿作りにも挑戦しました。年明けの新酒仕込み時期には、どんな干し柿ができあがるのか、また今回のPJ活動に楽しみがひとつ増えました。

酒仕込み神事&お味噌作り 1月12日(土)雨 (平均気温5.2) 参加者:145名

おごそかに始まった2007年度の新酒仕込みのための神事。底冷えのする酒蔵の中で約50名の参列者のもと、神主の祝詞(のりと)に続いて榊(さかき)を奉納し、全員で拍手(かしわで)を打って美味しい日本酒のできあがり神妙に祈願しました。引き続き、2班に分かれて、交互に白菊酒造・廣瀬専務の引率による酒蔵見学と、試飲会&新しい包装紙用の寄せ書きです。子ども達も今年の包装紙を想像しながら、楽しそうにメッセージやイラストを思い思いに書いていました。一方、都市センターでは、約90名が参加してお味噌作りが行われました。達人たちが畑に種をまき、みんなで草取りをして、ひとつひとつ選別した大豆と北海道産の有機栽培を使い、前日から大きなお鍋で茹で、手で潰せるほどの柔らかさにします。大人も子供も台の上で丁寧に大豆を潰して、塩とNEC米で作った麹を混ぜて出来上がり。作業は意外と単純です。子供たちはお団子を作ったり、トンネルを掘ったり。まるで粘土遊びですね。あとは混ぜて7月の土用の頃まで寝かせて発酵するのを気長に待ちます。イベントでも稲刈りからこのお味噌を使って炊き出しのお味噌汁を作ります。「谷津田散策に行く人!!」、「はーい」。午後からは、生きもの観察も含めた谷津田散策に行きました。朝から降っている雨がだんだん強くなって来たことも忘れるぐらいの元気の良さです。まだまだ寒いのですが、土の中からはほんの少し気配(春?)が感じられました。寒さに震えながらセンターに戻ると暖かい甘酒と子供たちがついたお餅が待っていました。おいしかったですね。

新酒蔵出し 3月8日(土)快晴 (平均気温3.3) 参加者:140名

晴天に恵まれ、すがすがしく澄み切った気持ちのよい青空の下、白菊酒造での酒蔵見学、谷津田でのわら細工・竹細工や生物調査、そして都市センターでは豆乳づくりやラベル貼りが行われました。新酒には参加者の皆さんが最後まで関わり、瓶に「愛町で笑呼」のラベルを貼り、お米入りの小冊子を組み立て、手作りのお酒が完成しました。3回以上参加された方への記念品として、新酒を受け取った方の満面の笑みは、正に「愛町で笑呼」の名にふさわしく感じました。毎年恒例の一年の振り返り展示では、実際に田んぼで活躍している昔ながらの農機具や、4年間の谷津田の移り変わりを写真で見ることができました。

「お酒」には「愛町で笑呼(あいていでこ)」「IT、で、エコ」という銘をつけています。

2007年度のお酒(特別純米原酒)は
香り豊かでスッキリとした味わいのお酒です。
アルコール度 : 17%
日本酒度 : +3
酸度 : 1.7



小屋ができるまで



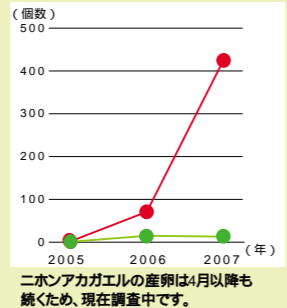
自然学校

脱穀

田んぼの再生と生きものたち

いま世界中でカエルが減っています。特に2月~4月に産卵する、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルは大変困っています。泳ぎの苦手な彼らは、浅くて(水深10~20cm程度)流れがゆるやかな水辺に産卵しますが、現代の日本で産卵に適した水辺を探すのは、大変難しくなっています。北の入田んぼはそんな生きものたちを聞きながら田んぼを管理しています。冬の間、水を張った田んぼを用意して4年。今年はアズマヒキガエルの卵塊がとでも増えました。2005年春に生まれたカエルが大人になって、産卵のために戻ってきてくれたことがわかります。(2008年3月31日現在)

NEC田んぼのカエル卵塊数変化



ネットワークセンサー

田んぼに太陽電池で駆動するエコ気象観測システムを設置して3年が経過しました。この装置では、温度・水湿・湿度・雨量・日射量・風向風速・気圧が10分単位に測定できます。設置当初は、収集したデータがどのように活用出来るのかも分からずに、まずはやってみよう精神から始めたのですが、3回分のデータが蓄積され、徐々に稲の生育との因果関係に気づいてきます。2007年度の天気傾向として、梅雨明け8月から9月上旬の猛暑、8月16日には3年間で最高の35.1を記録!合わせて8月は少雨でわずか22mmしか降りませんでした。水管理に苦労した思い出があります。また、6月と8月は日照に恵まれて、稲がぐんぐん成長しました。将来、農業の振興にITがお役に立てればと願っています。

NEC田んぼの気象記録

	日にち	記録
最も暑かった日	8月16日	35.1
最も寒かった日	2月18日	-6.6
最も晴れた日	6月23日	6.7時間
最も雨が降った日	10月27日	84.2mm
最も風が強かった日	9月7日	16m/秒
最も湿った日	4月25日	99.9%
最も乾燥した日	2月14日	50.4%

小屋作りに挑戦!

大工さんメッセージ

おかげさまで、1年掛けて完成いたしました。小屋の建築には「田んぼの達人」のみなさんが大工の技術を体験する機会にもなり、みなさん良い経験をされたと思います。小屋の建築でうれしかったことは、作業をとおして多くの人たちとより深く知り合うことが出来たことです。できるだけ自然の材料を使った小屋は十年二十年と使って真価が出ると思います。どうかみなさん愛情をもって使ってください。

達人さんメッセージ

田んぼの小屋が2007年12月に完成しました。これでイベント時の休憩や着替えなども出来るようになりました。地元の大工さん、アサザ基金のスタッフ達の暖かいご指導の下、小屋作りなどしたことのない達人達の汗と涙(?)の成果です。この小屋は、外壁を丸太小屋風に見せるために杉の皮を剥いた角材の端材を使用しています。小屋正面のひさしには竹を使うという、他には類を見ない構造になっています。達人たちは柱を立て、棟を上げ、床を張り、杉の皮をひたすら剥き、竹を切り、ひさしを作り...本当に楽しくも身体を使う、貴重な体験をさせていただきました。